

K140.7

2.1

1

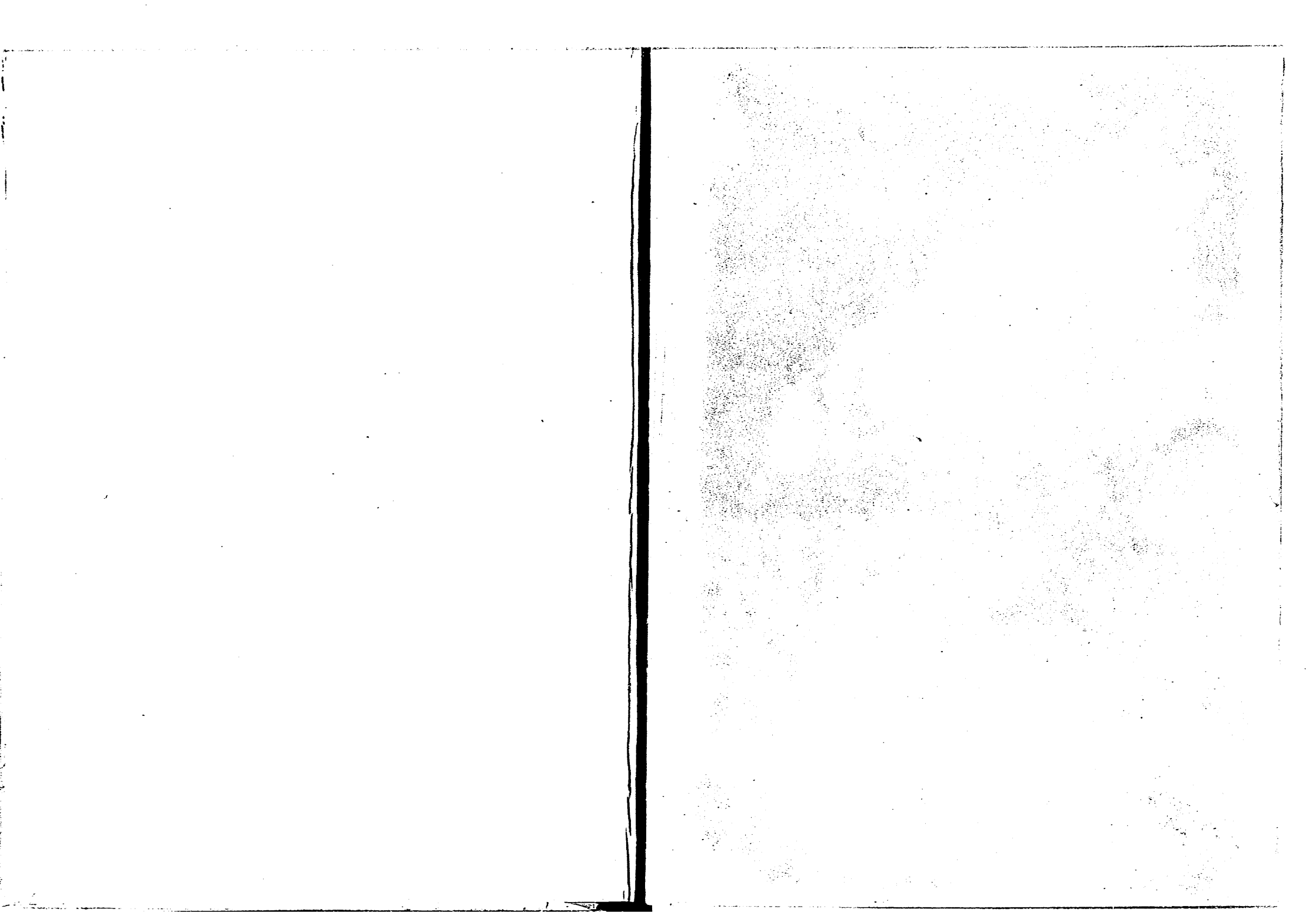
新訂
高等小學唱歌
伴奏附



第一學年用



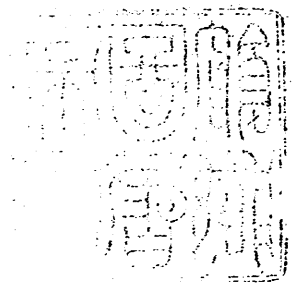
文部省



文
部
省

新訂
高等小學
唱歌
伴奏附

第一學年用



緒 言

緒

言

一、本書ハ、音楽教育ノ進歩ト時代ノ要求トニ鑑ミ、高等小學校唱歌科ノ教科用トシテ、新ニ編纂セルモノナリ。

二、本書ハ、各學年ソレゾレ男子用ト女子用トニ分テ編纂シ、何レモ毎卷二十二章トセリ。内、各十五章ハ、男子用・女子用共通ノ教材、他ノ各七章ハ、男子用・女子用ノ別ニ從ヒテ、歌詞・樂曲トモニ相異ナルモノヲ以テ充テタリ。

三、本書ノ歌詞及ビ樂曲ハ、歌詞ニ高等小學讀本・農村用高等小學讀本所載ノ韻文ノ一部（第一學年用「昭憲皇太后御歌」、第二學年用「夏の曉」、第三學年用「稻刈」）ヲ採用セル以外、總ベテ本省ノ新作ニ係ル。

四、本書ノ教材排列ハ、程度ノ難易ノミニヨラズ、一面、歌詞ニ示サレタル季節・行事ニ就キテモ考慮セリ。

五、本書ハ、取扱者ノ便宜ノタメ、唱歌曲ノミノ樂譜ヲ掲ゲタルモノト、伴奏附ノ樂譜ヲ掲ゲタルモノト、二種類作製セリ。但シ、後者ハ、男子用・女子用共通ノモノ、男子用・女子用各別ノモノヲ併セ掲ゲタルヲ以テ、各卷二十九章ヨリ成ル。

六、本書ノ樂曲ハ、事情ニヨリ、伴奏ヲ附セズシテ授クルモ差支ナシ。然レドモ、伴奏ヲ附スルコトニヨリテ、タダニ歌唱ニ便スルノミナラズ、ナホ歌曲ノ興趣ヲ増進セシムルコトヲ得ベシ。

七、唱歌曲ノミヲ掲グタルモノニ於テハ、伴奏ノ前奏・間奏・後奏ノ部分ニ對シテ、必要ナル休止符ヲ附シ、又ハ休止符ト併セテ當該箇所ノ伴奏ノ主要旋律ヲ記シ、以テ歌唱ニ便ナラシメタリ。

八、本書ノ唱歌曲中、重音ノ箇所ハ、事情ニヨリ、上部主要旋律ノミヲ採リ、單音唱歌トシテ課スルモ妨ゲナシ。其ノ際ニハ、正規ノ場合ト同一ノ伴奏ヲ附スルコトヲ得。

九、本書ノ樂譜ニ配當セル歌詞ノ記法ハ、概シテ新訂尋常小學唱歌ニ準ゼルモ、其ノ間、ナルベク發音上ノ實際ニ適切ナラシメントメ、更ニ新ナル考慮ヲ加ヘタリ。

一〇、本書ノ樂曲ハ、概ネ中等諸學校ノ初年級並ビニ青年學校等ニ於テモ使用スルコトヲ得ベシ。

昭和十年三月

文 部 省

目 次

		男子用	女子用
一	昭憲皇太后御歌	一……2	一……2
二	春の曲		二……4
三	鷗		三……8
四	鯉 幟	二……4	
五	風 薫 る	三……8	四……10
六	野球の歌	四……10	
七	藤 (二部合唱)		五……12
八	希 望	五……14	六……16
九	梅 雨 晴	六……18	七……20
一〇	太 平 洋	七……20	
一一	登 山	八……24	
一二	海 國 男 子	九……28	
一三	秋 近 し	一〇……32	八……22
一四	灯	一……34	九……24
一五	舟にのりて	一二……36	一〇……26
一六	紫 式 部		一……30
一七	高 嶺 の 月	一三……40	一二……34
一八	村 時 雨	一四……42	一三……36
一九	滿 洲 の 野	一五……44	
二〇	子 守 歌		一四……38
二一	御 代 の 榮 (二部合唱)	一六……48	一五……40
二二	冬 來 る	一七……50	一六……42
二三	御 裳 濯 川	一八……52	一七……44
二四	薩 摩 守	一九……56	一八……46
二五	雪 の 行 軍	二〇……58	
二六	幼き頃の思出		一九……50
二七	春 の 訪 れ	二一……62	二〇……52
二八	難 祭 の 宵		二一……54
二九	送 別 の 歌 (獨唱及び二部合唱)	二二……64	二二……56

昭憲皇太后御歌

昭憲皇太后御歌

♩ = 80

mp

一 ヒ ト シ レ ス オ モ フ コ コ
二 ひ の も と の さ か ひ は な
三 カ ミ カ ゼ ノ イ セ ノ ク チ
四 あ さ と に む か ふ

♩ = 80

mp

ロ ノ ヨ シ ア シ モ テ ラ シ ソ
レ テ ユ く ね ふ に く の ひ
ト ノ ミ ヤ バ シ ラ ユ ル ギ ナ
ミ の く も り な く あ ら ま

mf

ク ラ ャ ア メ ツ チ ノ カ ミ
カ リ ャ の セ テ ヤ ノ ま し ナ
キ ャ は ナ ホ コ ろ な れ ナ リ

mf

rit.

二

昭憲皇太后御歌

一、昭憲皇太后御歌

一、人知れず思ふ心のよしあしも

照らし分くらん天地の神

二、日の本のさかひ離れてゆく船に

國の光も載せてやらまし

三、神風の伊勢の内外の宮柱

ゆるぎなき世をなほ祈るかな

四、朝毎にむかふ鏡のくもりなく

あらまほしきは心なりけり

三

春の曲

春の曲

♩ = 96

mp

一ッラニナガルルヒト一ヒラノク
二はのにかすめるやま一ふもとを
三キギノコズエニハナ一ヒラキホ

mp

モニモミユルアタ一タカサキ
かのはのみづのせせ一らぎはた
ノボノニホフクサ一ノイロア

四

春の曲

♩ = 96

ビシキフユハスギナリチハ
のしきうにをさそはずやわ
カルクウクフモロトリノコ

f

ルハキニケリイザトモヨハ
かきみどりののにいでては
エニアハセテイザトモヨハ

mf

ルノキヨクヲウタハシ
るのきよくをうたはん
ルノキヨクヲウタハシ

五

二 春の曲

一、空に流るるひとひらの

雲にも見ゆるあたたかさ。

きびしき冬は過ぎさりて、

春は來にけり。いざ友よ、

春の曲をうたはん。

二、ほのに霞める山ふもと、

小川の水のせせらぎは、

たのしき歌をさそはずや。

若きみどりの野に出てて、

春の曲をうたはん。

三、木木のこずゑに花ひらき、

ほのぼのにほふ草の色。

あかるく歌ふ諸鳥の

聲にあはせて、いざ友よ、

春の曲をうたはん。

鷗

鷗

♩ = 96

p

一 ユ メ ヤ ミ ル ラ ン ク ア ー モ マ タ
 ニ ユ め な さ ま し そ か は ふ ね の
 三 ユ メ デ タ ド リ テ ミ ギ ハ ベ ノ

p

ミ ギ ハ ニ ネ ム ル カ モ ノ ド リ
 ミ な う た し げ く き こ え ね ば
 ミ ズ ニ ス ガ タ モ ウ フ シ ツ

mp

ミ ズ ノ ナ ガ レ ノ オ ト モ ナ ク
 み ズ に ま ど ろ む み づ と り の
 ユ メ ハ ガ モ メ ニ サ チ オ ホ ク

poco ril.

p

シ ズ カ ニ ク ル ル ハ ル ノ ヒ ヤ
 し づ か に む す ぶ け ふ の ゆ め
 ヒ ネ モ ス ミ ズ モ シ ズ カ ナ レ

poco ril.

三、鷗

一、夢や見るらん、けふもまた
 汀にねむる 鷗鳥。
 水の流の、音もなく、
 静かに暮るる 春の日や。

二、夢なさましそ、川舟の
 舟うたしげく 聞えねば。
 水にまどろむ 水鳥の、
 静かにむすぶ けふの夢。

三、夢路たどりて 汀邊の
 水に、姿も うつしつ。
 夢は、鷗に 幸多く、
 ひねもす、水も静かなれ。

鯉 幟

鯉
幟

$\text{♩} = 126$

$\text{♩} = 126$

mf

f

mf

一ゴグツツノソラハカレツタリカゼノカヲレバ
二ちじやうーのかげのをどるにもちからあふれて
三ミヤコニハナニホシクアヲバノカバノ
四ひこひはあかくまごころをまごひまくろく

mf

mp

mp

鯉
幟

mf

f

mf

ヲアービテ—ヲヲシクオヨグ
にひ—れに—いのちのこもる
マ—レ—ス—ト—ホ—ル—ニ—タル
の—と—し—も—の—ぞ—み—に—い—さ—む

コヒノボリニツボ—ン—ダン—ジ—ノ—イ—キ—ミ—セ—
こひのぼりにつぼ—ん—だ—ん—じ—の—す—が—た—に—
こヒノボリニツボ—ン—ダン—ジ—ノ—カ—ズ—マ—シ—
こひのぼりにつぼ—ん—だ—ん—じ—は—か—く—あ—れ

ヲ—
テ—
テ—
と—

f

四、鯉 帳

一、五月の空は晴れわたり、

風の薫れば、矢車の

音もほがらに、陽を浴びて

雄雄しく泳ぐ鯉帳。

日本男児の意氣見せて。

二、地上の影のをどるにも

力溢れて、ひもすがら、

口に、眼に、尾に、鰭に、

命のこもる鯉帳。

日本男児の姿にて。

三、都に、鄙に、句はしく

青葉・若葉のもゆる時、

男の子ここにも生まれぬと、

ほこるに似たる鯉帳。

日本男児の數増して。

四、緑鯉はあかく、まごころを、

眞鯉まくろく、健げさを

我にしめして、この年も

望にいさむ鯉帳。

日本男児はかくあれと。

風 薫 る

風
薫
る

♩ = 120

mp

一 ト リ ノ ネ シ ゲ キ ヤ マ ア ヒ ノ
二 ま き は の ひ る の し づ け き に
三 ク ハ ノ ハ ミ テ テ カ ゴ セ オ ヒ

mf

ア ラ バ ソ カ バ ニ ヒ ノ ヒ カ リ
む れ を は な れ し わ か こ ま は
イ ソ ギ ノ ミ チ フ カ ヘ ヲ ユ ク

一四

風
薫
る

mp

ヲ カ ノ ム キ バ タ ト プ テ フ ノ
ひ ば り き く と や め を と ち て
ク タ モ ホ ガ ラ ノ ハ ラ カ ラ ノ

mf

シ ロ キ ツ バ サ ニ カ ゼ カ フ ル
た ち て う ご か ず か ゼ か を る
ホ ホ ニ フ キ キ テ カ ゼ カ フ ル

五、風 薫 る

一、鳥の音しげき山あひの
青葉・若葉に、日の光り、
丘の麥畑 飛ぶ蝶の
白き翅に、風薫る。

二、牧場の晝の静けきに、
群をはなれし若駒は、
雲雀さくとや、眼をとちて、
立ちて動かず、風薫る。

三、桑の葉満てて、籠せおひ、
急ぎ野路を 歸り行く、
歌もほがらの はらからの
頬に吹来て、風薫る。

一五

野 球 の 歌

野
球
の
歌

♩ = 104

♩ = 104

f marcato

— ファウ — クソク — ミ ナ ギ — ル ミ ソ ラ ノ モ ト —
 ニ P ろ ン え い し づ け — き ま な か に た ち —
 三 mf ハ ク セ ン エ カ キ — テ ホ ツ キ ャ — ト ベ —
 四 f し ょ — し や は ほ こ ら — ず は い し や も く い —

ニ — シ ノ ギ ラ ケ グ — ル — ヨ
 て — し ん ぼ う — め ぐ — ら — す
 バ — チ カ ラ ラ ア フ — メ — シ
 ず — だ う — だ う — あ ら — そ — ふ

* 伴奏部の強弱は歌詞各節の強弱による。

一六

野
球
の
歌

コウ — シュノニグ — ン クソ シュク — ヒ ト — シー ク
 と う — し ょ の む ね は セ い ら ン こ ず — 系 — を
 テ ッ コ ン イ ナ タ オ ト ア リ コ ク ウ — — ラ
 だ ん じ の い き に か つ さ い は わ き — た — ち

mf カ タ グ ラ ノ ミ — テ f ア ツ ム ル ヒ
 pp さ や か に ふ け — ど p ま ん ぢ ゃ う — こ
 p カ ス ム ル タ マ — ノ mf イ ナ ラ モ タ
 mf が ら — て き な れ — ば f は な や ぐ ゆ ふ

(non dim.)
 ト — ミ — ハ トウ — シュニグ シヤ ニ
 る — な — く ふ う — う を ま て り
 カ — シ — ヤ シュ レ ン ノ カ ヒ ナ
 — — ひ — に セ ん し は か へ る

(non dim.)

一七

六 野球の歌

一、陽光みなぎるみ空の下に、
鎬をけづるよ、攻守の二軍。
観衆ひとしく固唾をのみて、
集むる瞳は、投手に、打者に。
二、陣營静けき真中に立ちて、
深謀めぐらす、投手の胸は。
青嵐梢をさやかに吹けど、
満場聲なく風雨を待てり。



三、白線ゑがきて熱球飛べば、
力を集めし鐵棍一打、
音あり、虚空をかすむる球の
動も高しや、手練の腕。
四、勝者は誇らず、敗者も悔いず、
堂堂あらそふ男兒の意氣に、
喝采はわきたち、號笛鳴れば、
はなやぐ夕日に、戦士は歸る。

藤

(二部合唱)

藤

♩ = 66

p

V

Ⅰ
ス ナ ノ シ ロ キ ニ ム ラ ナ キ
ニ を と め い く た り つ ぎ つ ぎ

Ⅱ
ス ナ ノ シ ロ キ ニ ム ラ ナ キ
ニ を と め い く た り つ ぎ つ ぎ

p

mp

V

ノ ハ ナ ノ コ ボ レ シ ウ フ ー ク
に ひ か さ た た み て げ た ぬ

mp

V

ノ ハ ナ ノ コ ボ レ シ ウ フ ー ク
に ひ か さ た た み て げ た ぬ

mp

110

藤

pp *poco ril.* *mp* はやめに

シ ナ ウ ツ ク シ ナ シ バ シ
ぎ て げ た ん ぎ て ふ ぢ の

pp *poco ril.* *mp* はやめに

シ ナ ウ ツ ク シ ナ シ バ シ
ぎ て げ た ん ぎ て ふ ぢ の

poco ril. *un poco più mosso* *mp*

p

pp *mp*

タ タ ヘ テ フ ナ ゴ ハ カ ミ ソ カ チ
は な お さ く ぐ り て は さ き あ ら そ

pp *mp*

タ タ ヘ テ フ ナ ゴ ハ カ ミ ソ カ チ
は な お さ く ぐ り て は さ き あ ら そ

p

111

a tempo
mp
 テ ハ ヅ ツー ミ テ ハ エ ミ カ ハ シ
 ひ て の はー り ゆ く こ ゑ ぞ に ぎ

a tempo
mp
 テ ハ ヅ ツー ミ テ ハ エ ミ カ ハ シ
 ひ て の はー り ゆ く こ ゑ ぞ に ぎ

a tempo
mp

p
più p
 タ ル フ チ ビ ヨ リ フ チ ビ ヨ リ
 は ふ たい こ ば し たい こ ば し

p
più p
 タ ル フ チ ビ ヨ リ フ チ ビ ヨ リ
 は ふ たい こ ば し たい こ ば し

p
più p

七 藤

一、
 砂の白きに、紫の
 花のこぼれし、美しさ、
 しばし、讚へて、をさな兒は、
 紙、わかちては、包みては、
 笑みかはしたる
 藤、日和、藤、日和

二、
 少女、幾人、次次に、
 日傘、たたみて、下駄ぬぎて、
 藤の花房、くぐりては、
 先、争ひて、登りゆく
 聲、ぞ、賑ふ
 太鼓橋、太鼓橋、
 下駄ぬぎて、

希望

希望

♩=104

元気をこめて

mp

一ミヨヤノミチノク一サニミヨヤ
二みよやしづかにえたをみよや
三ミヨヤソレタアシタヲミヨヤ
四みよやこんひのにつはんみよや

mf

カレハテタリトミエナガラ
さびしくたちしきぎにみな
ヲチーナクアレドソカキヒニ
ただしくたかくひのみはた

二四

キノーモクフーモアタラシク
かくれしつよきちからもて
クマレタキニシヒトトシテ
かざしてとほにとつくにと

mf

メハモエイデヌノゾミーニモエテ
はのびいでぬのぞみにもえて
ナヲアゲテヤハノゾミーニモエテ
てをとるゆかんのぞみにもえて

f

メハモエイデヌノゾミーニモエテ
はのびいでぬのぞみにもえて
ナヲアゲテヤハノゾミーニモエテ
てをとるゆかんのぞみにもえて

希望

二五

出^デ望^{ボウ}に燃^ネえ^ヌて。

望のぞ出い
に て
燃もぬ、
え
て。

等^らの明^{あき}日^ひを、見^みよや。
をさなくあれど、若^{わか}き日^ひに
生^なまれて來^きにし人^{ひと}とし
名^なをあげてや、は、

望 ^{もち} り	外 ^と 御 ^ご
に ^に 行 ^ゆ	つ ^つ 旗 ^{はた}
燃 ^も か	國 ^{くに}
え ^え ん	と
て ^て	

梅 雨 晴

梅
雨
晴

$\text{♩} = 84$

一 ヤ ネ ニ ス ズ ノ イ ク ニ チ プ リー ニ
二 よ く も つ づ き し つ ゆ け さ は れ て

mp *mf*

ア サ ヒ ラ マ チ テ タ カ ラ ニ ナ ケ バ
し め り も き よ き よ あ け の に は に

p

ニ ハ ノ ア ラ バ ラ フ キ ク ル カ ゼ ノ
こ ぼ れ こ ぼ れ し ざ く ら の は な を

二八

梅
雨
晴

mp *mf*

キ ヨ キ ラ ホ メ テ マ ド ア ケ ハ ナ チ
は き す て か ね て て に と り あ げ て

f

ア ラ キ ソ ラ ミ ル ス ガ ス ガ シ ナ ヨ
ひ と つ ふ た つ は つ ち は ら ひ み る

九、梅 雨 晴

二九

一、屋根に、
雀の 幾日ぶりに
朝日を待ちて高らになけば、
庭の青葉を 吹来る風の
清きをほめて、
窓 あけはなち、
青き空見る、清清しさよ。

二、よくも
つづきし 梅雨今朝はれて、
しめりも清き 夜明の庭に、
こぼれこぼれし 柘榴の花を
掃きすてかねて、
手に とりあげて、
一つ二つは、土拂ひ見る。

太平洋

太平洋

$\text{♩} = 112$

mp

一ハ タウー セ ン リ ヤウー ヤウー ト
ニ ど たうー ば ん り べうー べうー と

$\text{♩} = 112$

mp

con. Ad.

mf

ヒ ガシ ニ ウ ネ リ ニ シ ニ ヨ セ
み な み に は し り き た に さ り

mf

mp

ヒ イ ズ ル クーニーノ ア カツ キ ニ
ひ い づ る くーにーの し ま か げ に

mp

〇三

太平洋

mf

ヲ フ シ ク ク タ フ ク ミ ノ ク タ
ほ が ら に う た ふ う み の う た

mf

f

ク ロ シ ホ コーエーテ イ ザ ユ カ ン
な み の り こーえーて い さ め か ん

f

ff

ソ レ ラ ノ ク ミ ヨ タ イ へ イ ヤウ
わ れ ら の う み よ た い へ い やう

ff

mf

三三

一〇 太平洋

一、波濤千里洋洋と

東にうねり、西に寄せ、

日出づる國の曉に、

雄雄しく歌ふ、海の歌。

黒潮こえて いざ行かん、

我等の海よ、太平洋。

二、怒濤萬里渺渺と

南に走り、北に去り、

日出づる國の島陰に、

ほがらに歌ふ 海の歌。

波乗りこえて いざ行かん、

我等の海よ、太平洋。

登山

♩=120 行進曲風に

mf

一 マ ナ ツ ナ レ ド モ マ フ ユ ノ ヨ ソ ホ ヒ
二 あ さ ひ ま た て す こ と り も め さ め す
三 タ ヨ ル カ ン ジ キ ア ル ペ ン ス ト ー ツ ク
四 お は な は た け の め さ む る は か り に
五 ヒ ク タ ナ リ ユ ク ゲ カ イ ノ ヤ マ ヤ マ

♩=120 行進曲風に

mf

ア カ ツ キ サ ム キ コ ヤ フ イ テ テ
こ ほ り の ご と き た に の な が れ
ヒ ト ア シ ゴ ト ノ ア ユ ミ タ カ シ
イ タ タ キ は バ カ リ キ ソ ひ さ く を ニ

mp

コ ン ガ ウ ツ エ モ シ バ シ ハ カ タ ニ
こ ご し き い は ね け は し き さ か ぢ
ス ベ ル ナ フ カ キ ク レ バ ス チ カ シ
か た ゐ に め て て み あ ぐ る を ね に
シ マ カ ト ミ エ テ メ デ イ ト ヒ ロ シ

mp

mf

イ ク ト セ ク ハ タ テ イ ク ト セ ネ キ シ
お の れ の て あ し の ち から の ま に
ハ シ キ モ オ キ イ テ ヤ サ シ キ コ エ ニ
オ モ ヒ モ ヨ ラ ザ ル カ タ ヨ リ イ デ シ

mf

f

コ レ ナ ル ケ フ コ ク コ ト シ リ レ ヨ ツ
わ た れ ば の ほ れ ば む し ゃ ぶ る ひ す る
オ ヤ コ ノ ラ イ ラ ウ ガ ン カ タ ニ ア リ
ゆ く て に め づ ら し は ひ ま つ の う み
ア サ ヒ ニ ム カ ヒ テ ト キ ノ コ エ ア グ

f

二、登山

一、

眞夏なれども、眞冬の装。
曉寒き小屋を出て、
金剛杖もしはしは肩に、
幾年くはだて、幾年願ぎし
これなる峽谷、今年われよづ。

二、

朝日まだ出ず、小鳥も目ざめず、
氷の如き岩根の流、
このしき岩根のけはしき坂路、
おのれの手足の力のままに、
おのれの手足の力のままに、
武者ぶるひする。

三、

たよるかんじき・アルペンストック、
一足毎の歩高し。

四、

滑るな、深きクレバス近し。
早くも起出で、巖角にあり。
お花島の、目ざむるばかりに、
いろどり、はしく、きそひ、咲くを、
かたみに愛で、見上ぐる尾根に、
白きはキャンブか、白衣の人か。

五、

低く、なりゆく下界の山、
頂ばかり霧の海に、
島かと思ひ、よらざる方より出てし。
朝日に向かひて、関の聲あぐ。

海國男子

海國男子

The image shows a musical score for the song "The Rose Tree". It consists of two systems of staves. The first system has a single treble clef staff with a key signature of one sharp (F#) and a time signature of 2/4. The tempo is marked as ♩ = 96. The melody is simple, starting with a whole note G4, followed by a half note A4, and then a whole note B4. The second system has a grand staff (treble and bass clefs). The tempo is also marked as ♩ = 96. The bass line starts with a whole note G2, followed by a half note A2, and then a whole note B2. The treble line has a melody that starts with a quarter note G4, followed by a quarter note A4, and then a quarter note B4. The melody continues with a quarter note A4, a quarter note G4, and a quarter note F#4. The bass line continues with a quarter note G2, a quarter note A2, and a quarter note B2. The melody ends with a quarter note A4, a quarter note G4, and a quarter note F#4. The bass line ends with a quarter note G2, a quarter note A2, and a quarter note B2. The score is written in a simple, clear style, suitable for a children's songbook.

一 ア ア ソ レ ハ カ イ コ ク タ シ
 二 あ あ わ れ ら は か い こ く た し
 三 ア ア ソ れ ら は か い こ く た し
 四 あ ア ソ れ ら は か い こ く た し
 五 ア ア ソ レ ラ ハ カ イ コ ク タ シ

Musical score for "The Little Boat" (小舟) by Kikaku. The score is in G major (one sharp) and 2/4 time. It features a vocal line and a piano accompaniment. The lyrics are in Japanese. The piano part has a simple harmonic accompaniment with chords and moving lines in both hands.

さい い は ヒ オ ホ キ シ マ グ ニ ニ
 い は ね を あ か ら ふ し ほ の と ホ も
 ノ ズ ミ ヤ ハ カ つ く し ミ ト ホ ク
 あ ジ ヤ ハ づ ミ は う み シ は
 ウ ラ ベ ノ ス ミ ツ マ シ ク

三八

海國男子

[illegible]

mf

ナ ギ サ ノ ス 一 ナ ニ ア フ ギ ミ ル
 を さ な き ひ ー よ り か ち と ェ テ
 ナ ミ ノ リ コ ー ヌ ル の オ ホ フ ネ ニ
 か ミ サ す ク ー ミ の ち ハ レ バ
 ア の サ ノ

mf

※

アー カワ ナ
 サミガレミ
 ヤゆやらハ
 ケくきのハ
 タわナチホ
 ー ー ー
 トびしラ
 キをクハニ
 フまダマ
 ジなカネ
 ノびかなク
 ユケンナ
 キりきぬリ

3 2

三九

三、海國男子

一、 ああ

幸多き我等は海國男子に立ちて

心も清く生ひ立ちて

渚の砂に仰ぎ見る富士の雪

二、 ああ

岩根を洗ふ潮の音も

夢路にひびく子守歌

幼き日より舵とりて

三、 ああ

望は翔る海國男子

海行く業を學びけり

四、 ああ

心に抱くあこがれは

波乗越ゆる大艦に

輝きなびく軍艦旗

五、 ああ

アジャにつづく大海は

譽も高き日本海

かの武夫の血をくみし

我等の血潮高鳴りぬ

浦邊の住家は睦ましく

富は盡きせじ太平洋

朝日の海に帆を張れば

秋 近 し

秋
近
し

♩ = 92

mp

mp

ニハノカキネニサキノコルハ
二みちのほとりのくさむらにむ
三ヤカテクレユクユフゾラノホ

mp

mf

mp

ナノヒマハリイローサノテオ
しのはたおりはねーのべてほ
シノマタタキミアグレバヒ

mp

四二

秋
近
し

mf

モヒイルカニクツムキシヌハ
にやおるらんなきいでぬほ
カリサヤカニユラグナリハ

mf

mp

ヤアキチカシアキチカシ
やあきちかしあきちかし
ヤアキチカシアキチカシ

mp

一三 秋 近 し

四三

- 一、庭の垣根に咲きのこる
花の向日葵 いろさめて
思ひ入るがに うつむきぬ
はや秋近し、秋近し。
- 二、道のほとりの草むらに、
蟲のはたおり 羽のべて、
機やおるらん、鳴きいてぬ
はや秋近し、秋近し。
- 三、やがて暮れゆく夕空の
星のまたたき 見あぐれば
光さやかに ゆらぐなり。
はや秋近し、秋近し。

灯

灯

$\text{♩} = 48$

pp

p

一 タ カ イ ミ ソ ラ ニ ヒ ガ ヒ ト フ
 二 と ほ い み そ ら に ひ か ひ と つ
 三 ウ ミ ノ ム カ フ ニ ヒ ガ ヒ ト フ

p

灯

1. 2. 3.

ホ シ カ ト オ モ ヘ バ マ ド ア カ リ
 ま ど か と お も ヘ ほ お ほ し さ ま
 フ ネ カ ト オ モ ヘ バ シ マ ノ ヒ

1. 2. 3.

三	二	一
灯。海	灯。遠	灯。高
が の	が い	が い
島 船 一 向	お 窓 一 み	窓 星 一 み
の か つ か	星 か つ 空	あ か つ 空
灯 と ふ に	さ と に	かり 思へば
だ 思へば	ま 思へば	

舟にのりて

舟にのりて

J=120

J=120

mf

フネニノリテ カハヲクタル
二ふねにのりて うみをわたる

mf

p *mp* *pp*

ユルキナカレキヨキフチセコウヲク
かぢはまこと ただにひとつとほきゆ

mf

グーラ キシノクサニガケノエ
くーて なみをけ たて きせんゆ

四六

舟にのりて

p *mp* *p*

ミネニソクハクモカキリカココロタ
ひろきなみぢめあてかへずこころた

mf *f* *mf*

ノシクタダヒタスラニカハヲクタルカ
だーしく ただましぐらに うみをわたる う

p *ril.*

ハヲクタル フネニノリテ
みをわたる ふねにのりて

四七

一五、舟にのりて

一、舟にのりて 川を下る。

ゆるき流、清き淵、瀬、

小魚くぐり、

岸の草に、崖の枝に、

花も咲きて、小鳥飛びて、

峯にわくは、雲か、霧か。

心、樂しく、ただひたすらに

川を下る、川を下る、

舟にのりて。

二、舟にのりて 海を渡る。

舵は、誠に一つ。

遠き行手、

波を蹴たて 汽船ゆけど、

風に 白帆高くあげて、

廣き波路、目あて かへず。

心正しく、ただましぐらに

海を渡る、海を渡る、

舟にのりて。

紫 式 部

紫
式
部

$\text{♩} = 84$

mp

一 マ ナ ビ ノ ミ チ ノ フ カ サ ヲ モ
二 ヘ い あ ん て う の う つ く し さ
三 モ ノ カ ク ヲ ミ ナ ム カ シ ヨ リ

f

サ イ ノ ス グ レ シ チ カ ラ ヲ モ
ス ニ も ひ と し き あ り さ ま を
ア マ タ ア レ ド モ ヲ ト コ サ ヘ

五
〇

紫
式
部

p *mp*

ユ カ シ ク ツ ツ ム ト ク タ カ ク
ゆ か し く う つ す ふ て の あ や
オ ヨ バ ス ホ ド ノ タ カ キ ナ ヲ

mf

チ ト セ ツ キ ザ ル フ ミ ノ ソ ザ
ひ か る じ ん じ の も の が た り
ト ホ キ イ コ ク ニ シ ラ セ ツ ツ

f *mp poco rit.*

イ マ モ カ ガ ヤ ク ム ラ サ キ シ キ プ
い ま も か が や く む ら さ き し き ぶ
イ マ モ カ ガ ヤ ク ム ラ サ キ シ キ プ

五
一

一六、紫式部

一、學の道の深さをも、

才のすぐれし力をも、

ゆかしくつつむ徳高く、

ちとせ盡さざる文のわざ、

今もかがやく

紫式部。

二、平安朝の美しき、

繪にもひとしきありさまを、

ゆかしくうつす筆のあや、

光源氏のものがたり、

今もかがやく

紫式部。

三、もの書くをみな昔より

あまたあれども男さへ

およばぬほどの高き名を、

とほき異國に知らせつつ、

今もかがやく

紫式部。

高嶺の月

高嶺の月

♩ = 96

mp

一 ソ ケ ユ ク ヤ マ ノ ノ ボ リ グ チ イ
二 に こ り に み て る ひ と の よ に わ
三 ツ キ ヨ ノ チ リ ニ マ ジ ル ト モ ソ

mf

mp

ク ツ カ ア レ ト ヤ ガ テ ミ ル ツ
カ み を き よ く ふ る ま ひ し よ
レ ラ モ ト モ ニ ツ ト ノ ツ ツ ミ

mp

五四

高嶺の月

♩ = 96

mp

カ ネ ノ ツ キ ノ ケ タ カ サ ヨ
か ね の つ き の た ふ ー と さ よ
カ ネ ノ ツ キ ヲ カ カ ミ ニ テ

mp

一七、高嶺の月

一、分けゆく山の登口、
幾つかあれど、やがて見る
月は一つと うたはれし、
高嶺の月の けだかさよ。

二、濁に満てる 人の世に、
わが身を清く ふるまひし
代代の聖も おもはるる、
高嶺の月の たふとさよ。

三、浮世の塵に、まじるとも、
われらも共に つとめつつ、
磨け、心を、 うつくしく、
高嶺の月を 鏡にて。

五五

村 時 雨

村
時
雨

$\text{♩} = 92$

sempre con And.

— *p* コ ノ ハ ニ ク サ ニ サ ラ サ ラ ト
ニ *mp* す ぎ ゆ く あ と を な か む れ は

ス ギ ユ ク ア ノ ヤ ム ラ シ グ レ
こ こ ろ も い つ か あ ら は れ つ

五
六

村
時
雨

mp ハ ラ ニ ヤ マ ニ ム ラ ザ ト ニ
mf の は ら も や ま も ひ ら さ と も

mf ヒ ハ テ リ ナ が ラ ツ カ ノ マ ニ
f め ぶ る は か り つ か の ま に

p タ ダ サ ラ サ ラ ト ソ ソ ギ ユ ク
mp に た す が す が と

poco rit. *a tempo*
な り に け り

五
七

一八、村時雨

一、
木の葉に、草に、
さらさらと
過ぎゆく雨や、村時雨。
野原に、山に、村里に、
日は照りながら、
束の間に、
たださらさらと
そそぎゆく。

二、

過ぎゆくあとを
眺むれば、
心も、いつか洗はれつ。
野原も、山も、村里も、
目ざむるばかり、
束の間に、
ただすがすがと
なりにけり。

満洲の野

♩ = 88

mf

ーッ が イ ク マ ン ノ マ ー ス ラ ラ が
ニ わ が い く ま ん の ま ー す ら を が

mf

2 1 3 2 1

セ イ ギ ノ タ メ ニ タ タ カ ヒ シ
せ い ぎ の な を ぞ と ど め た る

4 3 1 2

mp *mf*

イ ク チ ノ ア ト ズ マ ン シ ャ ー ハ ヒ
い く さ の あ と の ま ん し ゅ ー は ひ

mp *mf*

モ ア カ ア カ ト シ ヅ ミ ユ ク ミ
も は の は の と あ け て ゆ く み

f

リ タ ー ス カ ナ タ ー ク ソ ク ー
わ た ー す の べ の ー は て

5 4 3 2 2

バ ク ト テ ン ニ ヅ ラ ナ ル チ ヘ イ セ
ま で も り に や ヘ い わ の り ら ー き ゃう

ン オ モ ヘ バ ス ギ シ ヒ ズ カ ナ シ キ
ー お も ヘ ば け ふ の ひ ぞ う れ し き

一九、滿洲の野

一、わが幾萬のますらをが、
正義のために戦ひし
戦のあとぞ、滿洲は、
陽も赤々と沈みゆく。
見渡すかなた、曠漠と
天に連なる地平線。
思へば、過ぎし
日ぞかなしき。

二、わが幾萬のますらをが、
正義の名をぞとどめたる
戦のあとの滿洲は、
陽もほのぼのと明けてゆく。
見渡す野邊のはてまでも、
實にや、平和の理想郷。
思へば、今日の
日ぞうれしき。

子 守 歌

子
守
歌

♩ = 84

p

一 ネ ム レ ヨ ネ ム レ
二 ね む れ よ ね む れ

♩ = 84
sempre legato

p

カ セ モ ウ ラ ラ ニ ハ ナ チ ル コ カ ー ゲ
な み は ひ く れ て か も め も ね む る

mp

ネ ム レ ヨ ハ ハ ト ユ リ カ コ ハ ユ レ ス
ね む れ よ は は の う た ご ゑ を き き て

mp

子
守
歌

mf *mp* *p*

ヤ ヨ ネ ム レ ネ ム レ タ ナ ナ
や よ ね む れ ね む れ い と し こ

mf *mp* *p*

二〇、子 守 歌

一、ねむれよ、ねむれ、
風も うららに、
花散る 木陰。
ねむれよ、母と。
搖籠は 揺れぬ。
やよ、ねむれ、ねむれ、
幼児。

二、ねむれよ、ねむれ、
波は 日暮れて、
鷗も ねむる。
ねむれよ、母の
歌聲をききて。
やよ、ねむれ、ねむれ、
いとし兒。

御代の榮

(二部合唱)

御代の榮

$\text{♩} = 84$

mp

一 ク ニ ハ ヒ ロ ク ト チ ハ ヒ ラ ケ
二 り く に う ゐ に そ な ハ な り テ
三 デン トウ ト ホ キ ホ コ リ モ チ テ

$\text{♩} = 84$

mp

mf

ヒ ト ハ オ ホ ク モ ノ ハ ユ タ カ
シ カ モ ソ ス カ キ ク ニ ハ ニ ホ リ

mf

f

カ カ ル ト キ ニ ウ マ レ ア ヒ
わ れ ら こ こ に や す く す め
ノ ブ ル チ カ ラ ウ チ ニ ミ テ

六六

mf

ホ ノ ヨ タ ク ヘ ヨ ミ ヨ ノ サ カ エ
ホ め ヨ タ ク ヘ ヨ ミ ヨ ノ サ カ エ

mf

御代の榮

二、御代の榮

一、
國はひろく、土地はひらけ、
人は多く、物ははゆたか。
かゝる時に、生まれあひて、
ほめよ、たたへよ、御代の榮。

二、
陸に、海に、そなへ成りて、
我等、ここに、空の護。
我、ここに、安く住めり。
ほめよ、たたへよ、御代の榮。

三、
傳統、遠き誇り、ちて、
し、かも、若き、國は、日本。
伸ぶる、力、内、に、充てり。
ほめよ、たたへよ、御代の榮。

六七

冬 来 る

冬
来
る

♩ = 132

mp

一サートノヲガハノイタバーシニ
ニゴふきばやしのとりのねも
三ユフベハルケキキタヤマノ

コノゴロアサゴトシモシゲクーシテ
くもよをもれくるひのひかりーさへ
イタダキシロキハワガシラヌーマニ

六
八

冬
来
る

ナガレモホソクナリマナリ
さすがにさむきこころし
ユキコソハヤモフリニシカ

mf 1. 2.

フユキタルーフユキタルー
ふゆきたるーふゆきたるー
フユキタルーフユキタルー

3.

ルー

六
九

三、冬来る

一、里の小川の板橋に、

此の頃、朝毎、

霜しげくして、

流も細くなりまさり、

冬来る、冬来る。

二、雑木林の鳥の音も、

雲間をもれ来る

日の光さへ、

さすがに寒き心地して、

冬来る、冬来る。

三、夕遙けき北山の

頂白きは、

我が知らぬ間に

雪こそはやも降りにか。

冬来る、冬来る。

御裳濯川

御裳濯川

$\text{♩} = 80$

mf *maestoso* *dim.*

敬虔に *p*

一 ア サ ギ ヨ メ ミ モ ス ソ カ ハ ニ
二 ふ か み ど り こ た ち が く れ に
三 オ ホ ヤ シ マ ク ニ ツ ハ ジ メ ノ

mf

カ ミ チ ヤ マ カ ゲ ヲ ク ツ シ ラ
い や た か く ち ゐ に か つ を ぎ
オ ホ ミ カ ミ イ ツ キ マ ツ レ ル

七二

御裳濯川

cresc.

ユ ク ミ ツ ノ ナ カ レ
か み か き の ひ ろ き
カ ミ カ ゼ ノ イ セ ノ

f

カ ハ ラ ズ ス エ カ ケ テ
お ほ ま へ お の づ か ら
ミ ヤ シ ロ フ リ ア フ ギ

dim. *p* *poco ril.*

ス ミ ゴ マ サ レ
ふ し て ぬ か づ
ミ ル モ タ フ ト

七三

三、御裳濯川

一、朝あさ清きよめ 御み裳も濯すす川がはに、

神かみ路ぢ山やま 影かげを映うつして、

行ゆく水みづの 流ながかはらず、

末すえか けて 澄すみみぞまされる。

二、深ふかみどり 木き立たがくれに、

い や 高たかく、 千ち木ぎに 鯉こい木ぎ、

神かみ垣がきの ひろき 大おほ前まへ、

おのづから 伏ふして 額かぶつづく。

三、大おほ八や洲しゅう 國くにつ はじめの

大おほ神かみ 齋いはきまつれる、

神かみ風ふうの 伊い勢せの 御み社やしろ、

ふり 仰おほぎ 見みるも たふとし。

薩摩守

薩摩守

♩ = 96

mp

一 エ イ グ ノ ハ ル モ ウ ツ ロ ヘ バ
二 く も ゐ の そ ら と わ か れ て は
三 ノ ヤ ヰ ニ カ バ ネ サ ラ ス ミ ノ
四 か た み を の こ す も の の ふ の

♩ = 96

mp

mf

ク モ ホ ク レ イ ニ ム ラ ガ リ テ
ス ゑ や ヘ し は の な み く ら
シ ノ ミ ナ サ ケ ヲ カ ー ム リ テ
な は せ ん ざ い の こ と の は に

mf

f

ロ ク ハ ラ ノ ユ メ ヤ ブ レ ヨ ト
さ だ め の は て を ゆ く わ れ と
イ フ シ ヲ シ フ ー ニ ヲ ド メ テ
む か し な が ら の か を と め て

f

七六

mp

ス サ ブ ハ キ ソ ノ ア ヲ ア ラ シ
さ と れ ど か な し う た の み ち
タ ク モ ア ハ レ ヲ ハ モ く
ほ ま れ ゆ か し や ま ざ ら

mp

薩摩守

二、四、薩摩守

一、榮華の春も移ろへば
雲北嶺にむらがりて
六波羅の夢破れよと
荒ぶは木曾の青嵐
雲井の空と別れては
末八重潮の浪枕
さだめの果を行くわれと
悟れどかなし、歌の道
野山に屍さらす身の
師の御情を蒙りて
一首を集にあはれ、夜半の門
たたくもあはれ、
かたみを遺す武士の
名は千載の言の葉に
昔ながらの香を留めて
譽もゆかし、山ざくら

七七

雪の行軍

雪の行軍

♩ = 100

♩ = 100

f

♩ * ♩ * ♩ * ♩ *

poco rit. *a tempo* *mf* (V)

一 ア カツ キ ノ ソ
二 あ かつ き の そ
三 ア カツ キ ノ ソ

poco rit. *a tempo* *mf*

♩ * ♩ *

(V)

ラ ハ ヒ ロ ク ス エ ケ ブ ル ユ キ ノ ノ ハ ラ
一 を あ ふ ぎ い さ ま し や ゆ き の か う ぐ ん
ラ ノ モ ト ニ ウ フ ク シ ヤ ユ キ ノ ノ ヤ マ

♩ * ♩ *

simile

七八

mp (V) *cresc.* *V*

ヒ ト ツ ラ ニ シ ロ ガ ネ ノ ベー テ ア サ ト リ ノ カ
あ さ と て の ち か ら は み ち て ふ ゆ の ゐ も ほ
ニ ホ ヒ タ ツ ヤ マ ナ ミ ソ メー テ ア サ ヒ コ ノ ヒ

はつきりと

mp *cresc.*

f

ケ ル ミ エ ズ ユ ケ ヤ イ ザ ラ ラ ラ ラ ラ
ほ に す ず し う た へ い ざ ら ら ら ら ら
カ リ ナ ガ ル ト モー コ イ ザ ラ ラ ラ ラ ラ

f

ff (V)

ヒ ト ノ ア ト ナ キ ミ チ ラ ソ
わ か き わ れ ら の こ こ ろ を
イ ソ ゲ ソ レ ラ ノ ウ サ ギ オ

ff

p *leg.*

ケ ア ユ ミ モ カ ロ ク
は し ら べ も か ら ー く
フ フ モ ト モ チ カ ー シ

p

雪の行軍

七九

二五、雪の行軍

一、

曉の空はひろく、
未煙る雪の野原。
一面に銀展べて、
朝鳥の翔る見えず。
行けや、いざ、
人の跡なき道を分け、
歩も軽く。

二、

曉の空を仰ぎ、
勇ましや、雪の行軍。

三、

歌へ、
朝戸出の力は満ちて、
冬の威も頬に涼し。
いざ、
われらのころをば、
若き
調も軽く。

曉の空の下に、
うつくしや、雪の野山。
にほひ立つ山脈染めて、
朝日子の光流る。
友よ、
いざ、
われらの兎追ふ
急げ、
麓も近し。

幼き頃の思出

幼き頃の思出

♩ = 84

mp

一 イ ニ シ ア キ ア ネ イ モー ト
 二 つ き の よ る と も お ひ て
 三 ハ ハ ノ コ エ コ モ リ ウー タ

mp

タ ケ カ リ ア ン ビ シ カ ノ マ ツ ヤ マ
 か げ ふ み お そ び し か の す な や ま
 ト ハ ニ ズ ワ ス レ ジ カ ノ ユ リ カ コ

八二

幼き頃の思出

mf *mp*

ヲ サ ナ キ コー ロー ノ オ モ ヒ デー ハ
 を さ な き こー ろー の お も ひ でー は
 ヲ サ ナ キ コー ロー ノ オ モ ヒ デー ハ

p *mp*

ア ア ウ ル ハ シ キ ユ ノ ト ノ コー ル
 あ あ な つ か し や む わ に か へー る
 ア ア フ ル サ ト ニ コ コ ロ ハ コー プ

二六、幼き頃の思出

一、去にし秋、姉妹、
 背狩り遊びし
 幼き頃の思出は、
 ああ、懐かしや、胸に還る。

二、月の夜、友追ひて
 影ふみ遊びし
 幼き頃の思出は、
 ああ、懐かしや、胸に還る。

三、母の聲、子守歌、
 とはにぞ忘れじ、
 幼き頃の思出は、
 ああ、懐かしや、胸に還る。

八三

春の訪れ

春の訪れ

♩ = 50

p

一 ハ ル ノ キ タ ル ト イ
ニ す が た や さ し き う
三 ホ ノ モ メ グ ミ シ ツ

p *mp*

チ ハ ヤ ク ー サ ク ヤ ノ ナ カ ノ ウ
ぐ ひ す の ー う ら の こ や ふ に ね
カ ク サ ノ ー イ ロ モ サ ヤ ケ ク ア

mp

メ ノ ー ハ ナ ー ソ ヨ フ ク カ と
も た ー か く ー の や ま の
ヲ ミ ー フ フ ー ノ ハ ラ モ ヤ

mp

八四

春の訪れ

mf *p*

セ モ ハ ナ ノ ー カ ノ ー ニ
り に さ き か ー け て ー は
マ モ ウ ラ ウ ラ ト ー カ

mf *p*

ril.

ホ ヒ ユ カ シ ー
る を つ げ ぬ ー
ス ミ ツ メ ス ー なごやかに

mp *ril.* *p*

二七、春の訪れ

一、春の来ると いち早く
咲くや、野中の梅の花。
そよ吹く風も、花の香の
匂。ゆかし。

二、すがたやさしき 鶯の、
裏の小藪に音も高く、
野山の鳥に さきがけて、
春を告げぬ。

三、ほのも芽ぐみし 若草の、
色もさやけく青みつつ、
野原も、山も、うらうらと、
霞みそめぬ。

八五

雛 祭 の 宵

雛
祭
の
宵

♩ = 96

p

一 ホンボリ ニ ヒラ イ ル ル ト テ
二 じふ ー に ひ と へ の ひ め ぎ み の
三 クラ ー ン ザ ヨ ミ タ リ ノ マ ネ ス ト テ

デ ン ト ウ ー コ ト サ ラ ク ス モ ヨ シ
か ん じ り す こ し く ま が れ る を
イ モ ウ ト マ ジ メ ノ フ ル マ ヒ ニ

八六

雛
祭
の
宵

mf

エウ ー ラ ク ユ ー レ テ キ ラ メ キ テ
な ほ す と の ー ベ し て の ふ れ て
ク ハ ハ リ タ ー マ フ ハ ハ ウ ー ヘ ノ

p *dim.*

モ ノ ガ タ リ メ ク ヒ ナ ー ノ ー ヨ ー ヒ
も も の は な ち る ひ な ー の ー よ ー ひ
エ マ ヒ ウ レ シ キ ヒ ナ ー ノ ー ヨ ー ヒ

一、ぼんぼりに灯を入るとて、
電燈 殊更 消すもよし。
璣珞ゆれて、きらめきて、
物語めく
雛祭の宵

二、十二重の姫君の
冠少しく曲れるを、
直すとのべし 手の觸れて、
桃の花散る
雛祭の宵

三、官女 三人のまねすとして、
妹 まじめの振舞に、
加りたまふ 母上の
みまひ うれしき
雛祭の宵

二八、雛祭の宵

八七

送別の歌

(獨唱及び二部合唱)

送別の歌

♩ = 69

I

II

♩ = 69

♩ = 69

mp

sempre con rall.

mp

一 ユ ク カ ソ ガ ト モ マ ナ ビ ヤ ア ト ニ サ ラ
二 ユ ク カ わ か と も ま な ひ や あ と に さ ら
三 ユ ケ ヤ ソ ガ ト モ マ サ キ ク ア レ ヤ

mp

一 ユ ク カ ソ ガ ト モ マ ナ ビ ヤ ア ト ニ
二 ユ ク カ わ か と も ま な ひ や あ と に
三 ユ ケ ヤ ソ ガ ト モ マ サ キ ク ア レ ヤ

mp

八八

送別の歌

獨唱

v *p*

ハ カ ケ レ ヨ コ ト リ ノ コ ト ク ノ
ば こ き で よ ど り く の ふ ね を よ
ト オ モ ヘ ヨ イ ツ ミ ノ コ ト ク

サラバ カ ケ レ ヨ コ ト リ ノ コ ト ク
さらば こ き で よ ど り く の ふ ね を
サレト オ モ ヘ ヨ イ ツ ミ ノ コ ト ク

p

v *(v)* *v*

ハ ミ ド リ ニ モ エ ハ ナ サ キ カ セ ニ モ フ コ
の あ ら し は ほ え き り ま き な み す さ ぶ そ
ノ コ コ ロ ニ ソ ク ツ キ セ ス オ モ ヒ テ ノ コ

八九

送別の歌

合唱

ノのハルニカスミヲコエテヒカ
ノミドソユメニモカヨフフナル

カスミヲコエテヒカ
ユメニモカヨフフナル

リヘヒカリヘキバウーノヒカリヘ
サトミナルサトココロノミナトヘ

リヘヒカリヘキバウーノヒカリヘ
サトミナルサトココロノミナトヘ

送別の歌

mp dolce espressivo

p

piu p

poco ril.

p

二九、送別の歌

一、行くか、わが友、學舎あとに。

さらば翔れよ、小鳥の如く。

獨唱 野はみどりに萌え、

花咲き、風にほふ この春に、

霞を越えて 光へ、光へ、希望の光へ。

二、行くか、わが友、學舎あとに。

さらば漕出よ、努力の船を。

獨唱 世の嵐は吼え、

霧、巻き、波荒ぶ その海を、

雄雄しく越えて 港へ、港へ、理想の港へ。

三、行けや、わが友、まさきくあれや。

されど思へよ、泉の如く

獨唱 その心に湧く、

盡きせぬ思出の この窓ぞ、

夢にも通ふ 故里、故里、こころの故里。

K140, 73-2.1-1

新訂
高等小學唱歌
伴奏附

不許複製

初

第一學年用 定價金五拾錢

昭和十年四月十二日印刷
昭和十年四月十五日發行

著作權者 文 部 省

東京市京橋區銀座一丁目五番地

發行者 大日本圖書株式會社

代表者 專務取締役 杉山常次郎

東京市小石川區久堅町百〇八番地

印刷者 大橋光吉

東京市小石川區久堅町百〇八番地

印刷所 共同印刷株式會社

東京市京橋區銀座一丁目五番地

發行所 大日本圖書株式會社

振替貯金口座(東京二一九番)電話京橋二七三番二七四番

364

501

1000